

平成23年度第2期女性のための教養講座～女性大学～ 社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
9/27 (火)	現代の子どもの心育ち	札幌学院大学人文学部臨床心理学科教授 市川啓子
10/4 (火)	貧困問題と女性	北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 木下武徳
10/11 (火)	武道とBUDO ～武道必修化を考える～	札幌大学文化学部文化学科准教授 瀧元誠樹
10/18 (火)	北海道の災害と防災	北海道大学大学院理学研究院 附属地震火山研究観測センター助教 定池祐季
10/25 (火)	低経済成長下の「男」と「家族」	札幌学院大学経済学部経済学科准教授 浅川雅己
11/1 (火)	紫式部と清少納言の生き方	藤女子大学文学部日本語・日本文学科教授 小山清文
11/8 (火)	生き生き人生	札幌医科大学保健医療学部看護学科教授 山口雅子
11/22 (火)	恐竜絶滅が私たちに伝えること	北海道大学総合博物館准教授 小林快次
11/29 (火)	戦前北海道の地域医療を担った 女性医師たち	北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科教授 広瀬玲子
12/6 (火)	現在（いま）を知る	北海道新聞社論説委員 佐々木政文

平成23年9月27日（火）

現代の子どもの心育ち

札幌学院大学人文学部臨床心理学科教授 市川啓子



子どもの心の育ちに大きな変化が起きています。家族関係の変化や子どもを取り巻く社会的環境が人とのつながりの力を奪っており、子どもの心の問題も深刻化しています。講義では、学校でのいじめや不登校など現代的な課題を取り上げながら、学校不適応がなぜ起きるのかについてお話いただきました。また、家庭を取り巻く社会環境の変化が家庭の養育機能にも直接的な影響を及ぼすようになってきており、今こそ子育ては家族だけの問題ではなく社会全体の大仕事という視点が必要とお話いただきました。

平成23年10月4日（火）

貧困問題と女性

北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 木下武徳

「男性稼ぎ主モデル」の日本社会では、母子世帯や高齢女性世帯は貧困に陥りやすい状況にあります。講義では、貧困とはどういうことかについて、近年の貧困の捉え方の特徴などをお話いただくとともに、数々の資料を用いながら、日本における貧困の実態や意識について、また、社会における女性の位置づけを女性の労働実態から見ていきました。そして、日本では社会保障が貧困を促進している。「男性稼ぎ主モデル」から「両立支援モデル」へ、また、自助の前提としての社会保障を整えることが必要ではないかとお話いただきました。



平成23年10月11日（火）

武道とBUDO～武道必修化を考える～

札幌大学文化学部文化学科准教授 瀧元誠樹



学習指導要領が改正され、日本の中学校体育で男女ともに武道が必修となります。素養として身につけるべき伝統文化としての武道とは何なのでしょう。講義では、戦国の世が終わり実用性ではなく所作の見事さを専らとした時代、富国強兵政策下の国民教育の一つの柱として重要視された時代、また、BUDOとしてグローバル化する流れなど、武道について歴史的変容を語られました。体育や武道は直接的な身体体験ができる。そこでの技の妙に触れたときの驚きや疑問を通じて、武道が伝承されている意味や技を通じてのコミュニケーションのあり方などを考えてほしいとお話いただきました。

平成23年10月18日（火）

北海道の災害と防災

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教 定池祐季

東日本大震災。災害の全体像がつかめない中で、災害対応や復旧・復興を進めていかなければならない状況が続いています。講義では、北海道南西沖地震、東日本大震災の災害時に見られたできごとや生活再建過程を女性に注目した視点で紹介いただくとともに、実際に「クロスロード」を行い、災害発生時に感じる「ジレンマ」について考えました。そして、災害時には今まで見過ごされていた問題点や課題が特にダメージを受けてしまう。過去の災害に学び、その教訓を継承していくことが大切。東北で起こっていることから学び続け、「わがこと」として問いかけ、行動を起こしていくことが「次の災害」への備えにつながっていくとお話いただきました。



平成23年10月25日（火）

低成長経済下の「男」と「家族」

札幌学院大学経済学部経済学科准教授 浅川雅己



「育メン」「家事男」など「家庭回帰？」の傾向も見られる昨今の男たち。現在、約3割の男性が「育児休業を取得したい」と希望しています。しかし、実際の育児休業取得率は2%にもなりません。講義では、希望と実際にギャップがあるのは働き方の仕組みに大きな原因があるからで、根本的な解決のためにはそこを見直していかなければならない。育児休業という問題にしぼって考えた場合、「賃労働の相対化」がカギになるが、今すぐにとするのは無理。その第一歩として、育児休業給付金の拡充を考えることが今できることのひとつではないかとお話いただきました。

平成23年11月1日（火）

紫式部と清少納言の生き方

藤女子大学文学部日本語・日本文学科教授 小山清文

今から約千年ほど前、平安時代の宮廷社会において女房として仕え大活躍した紫式部と清少納言。彼女たちはどのようにこの時代を生きたのでしょうか。講義では、二人の著作『紫式部日記』と『枕草子』を取り上げ、彼女たちがどのように周囲の貴族たちと渡り合っていたのかをお話いただきながら、その対照的な内容に目を向けました。また、政情が変化する中、主家の要請を受け筆記する彼女たちが、その振る舞いやものを書き残すことでどのように自分を表現し、そして時代を生き抜いたのかについてお話いただきました。



平成23年11月8日(火)



生き生き人生

札幌医科大学保健医療学部看護学科教授 山口雅子

人類はその進化の過程で直立二足歩行となりました。その結果、骨盤の形が変わり難産に、また他の動物に比べ早産でお産には介助者が必要となるなど、お産は命がけのものとなりました。講義では、統計資料から妊産婦死亡率や乳児死亡率などを見たり、また、縄文土偶の特徴から推察される生死に関する思想や16世紀前半のフランスに見られる多産の実態など、古代から現在までのさまざまなお産事情をご紹介いただきました。そして、障害の有無などに関わらず、生命誕生の尊さを感じ、命を大事に生き生き輝く人生を送ってほしいとお話いただきました。

平成23年11月22日(火)

恐竜絶滅が私たちに伝えること

北海道大学総合博物館准教授 小林快次

6550万年前、恐竜は地球上から姿を消しました。絶滅は私たちに何を伝えるのでしょうか。講義では、DVDや数々のスライドを用いながら、地球の歴史や恐竜類の定義、なぜ地球上で恐竜が繁栄できたのか、なぜ恐竜は絶滅したのかなどについてお話いただきました。そして、地球の歴史の中で絶滅の速度が一番速いのは現在。人口の増加が砂漠化の原因のひとつになるなど、今までにないスピードでの絶滅をよんでいる。人類は知恵、文化、技術を持って繁殖してきたが、その結果として地球に無理がかかっている。しかし、人類は生きのびるための術を持っており、そのように努力できるのもまた人間だけ。改めて環境を見つめ直すことが大切とお話いただきました。



平成23年11月29日(火)

戦前北海道の地域医療を担った女性医師たち

北海道情報大学情報IT学部情報IT学科教授 広瀬玲子



明治維新以後、政府の政策により医療体制が整備されても、常に医師不足の状態が続いていた広大な北海道。公許女医第一号荻野吟子とそれに続く女性医師たちが北海道の地域医療を担いました。女性が医師になることが困難を極めた時代、彼女たちはどのように医師となり、北海道の医療に貢献したのでしょうか。講義では、医師荻野吟子が誕生するまでや彼女と北海道との関わりについてお話いただきました。また、吟子に続いた女性医師たちや無医村医療を担った女性医師たちの活動を紹介いただくなど、開拓者として潔く、自立心に富み、凜として生きていった北海道の女性医師たちについてお話いただきました。

平成23年12月6日(火)

現在(いま)を知る

北海道新聞社論説委員 佐々木政文

推定65万頭にまで急増したエゾシカ。自然環境への影響や農作物への被害、JRや自動車との衝突事故など、私たちの暮らしにも大きな被害が及んでいます。講義では、捕獲のプロの必要性やシカ食文化の啓発など、エゾシカ被害とその対策について、社説を取り上げながらお話いただきました。また、「一人っ子政策」が少子化と高齢化を招き、「二人っ子政策」への転換を進めている中国の人口問題を伝えるコラムを読みながら世界の人口問題について考えました。

